

イタリア映画の巨匠

「フェデリコ・フェリーニ監督特集 第1弾」

はっかにぶんのいち

上映作品：『8½』 1963年 伊仏合作

開催日：平成29年9月2日(土)

時間：14:30～16:50(上映時間約140分)

場所：あいパル3階ホール

対象：一般(高校生以上)

定員：100名(申込不要 当日先着順)

費用：無料

※問合せ 戸田市立図書館上戸田分館

〒335-0022 埼玉県戸田市上戸田2-21-1 TEL 048-442-1211

アクセス

①公共交通機関

埼京線「戸田公園駅」東口から徒歩10分

国際興業バス「上戸田地域交流センター」

西川61(西川口駅—戸田公園駅・下笹目)

西川62(西川口駅—医療保健センター・北戸田駅)

西川63(西川口駅—戸田公園駅・五差路)

tocoバス

喜沢循環(オレンジ)最寄りの停留所

No.2「戸田中央総合病院」徒歩2分

No.3「上戸田二丁目」徒歩3分

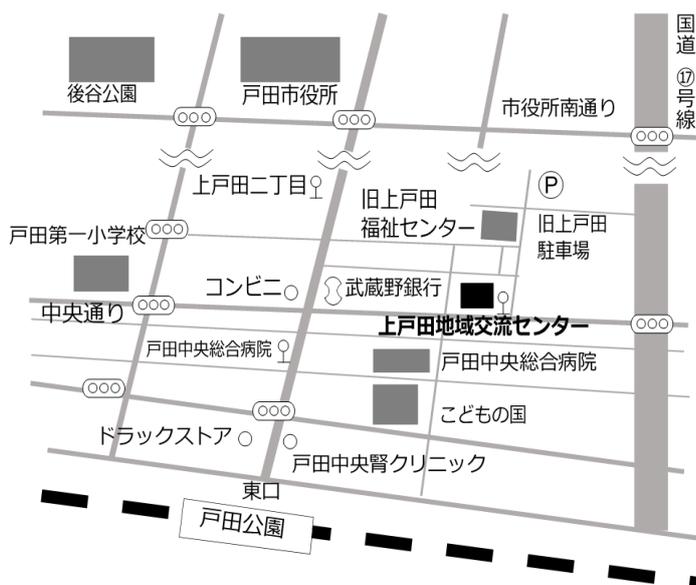
川岸循環(赤)最寄りの停留所

No.2「戸田中央総合病院」徒歩2分

②駐車場案内

あいパル駐車場 台数19台 100円/30分

※旧上戸田福祉センター駐車場16台も暫定的にご利用いただけます。(無料)



監督と作品

フェデリコ・フェリーニ (1920.1.20-1993.10.31) は、イタリアの映画監督。中期以降は、それまでにない斬新な表現技法を用いたことから「映像の魔術師」と呼ばれた。また、ストーリー性を排した難解な筋運びと独特なアイデアによる映像表現は「フェリーニ的」という形容とともに、多くの模倣者を生んだ。代表作として『道』(‘54)、『カピリアの夜』(‘57)、『甘い生活』(‘60)、『アマルコルド』(‘73)などが挙げられる。この度上映する『8 1/2』(‘63)は、同監督の最高傑作ともいわれている。

『8 1/2』という題名は、フェリーニのデビュー作が二人での共同作であり、今作が単独での8作目となることを意味するという。抽象絵画によくある『無題』又は『作品 No〇〇』のようなものだ。そして、小説に「私小説」があるように、この映画はフェリーニの「私映画」の体裁をとっている。内容は、「私映画」だけに物語性がほとんどなく、映画作りに苦悩する自分の姿を現実と妄想(夢)の間で行き来させながら描いている。こうした手法自体、当時としても珍しいものではないのだろうが、フェリーニの非凡な映像感覚に観客は混乱し、そして、魅了される。意味を読み解こうと作中に散りばめられた象徴的な記号のようなものを頼りにあれこれ解釈しようとしてもなかなかうまくいかない。

この映画は、観る者が理解しようとすることを拒んでいるかのように謎に満ちている。まず、冒頭の妙なシーケンスが印象的だ。上空を浮遊する主人公が落下するところでは、こちらまではとどまる。その前に渋滞するトンネルを漂う際、白い服のような布のようなものを沢山ぶら下げたバスは何を意味するのだろうか。それまで黒い服を着ていた登場人物が最後は白い服になっているのは何故か。クラウディア・カルディナーレは、主人公のガイド(マルチェロ・マストロヤンニ)の妄想では白衣又は白いシミーズなのに実物として現れたときは黒い服を着ている。ガイドは子供の頃(回想)も現在も一貫して黒い服を着ているが、最後の最後にマーチングバンドでフルートを吹いているガイド少年らしき子供は白づくめになっている。彼岸と此岸を表しているかとも思えるが、白服と黒服が同場面に混在していることから訳が分からなくなる。また、中盤の冗長な「女の館」のエピソード(妄想)も必要性が今一つ分からない。そして、制作会社の男が記者会見場でガイドの右ポケットに忍ばせたのは何だったのか。

さて、フェリーニ作品の特徴の一つに音楽が挙げられる。ほとんど全ての作品でニーノ・ロータが音楽を担当している。『太陽がいっぱい』(‘60)や『ゴッド・ファーザー』(‘72)のテーマ曲の作曲者としてよく知られているが『8 1/2』のテーマ曲もまた名曲である。序盤、ガイドが療養する湯治場のシーンでワーグナーやロッシニの楽曲が場面を無視して使われ戸惑うが、オリジナルテーマ曲は実にこの映画の雰囲気にもマッチしている。ラストに登場人物があちこちから集まってきて総出で手をつなぎ輪になって横歩きするシーンに被せられるテーマ曲の乗りは圧巻である。そして、最後は寂しく夜の闇に消えていく。

カーニバルの狂躁を演出する直前、ガイドが妻ルイザ(アヌーク・エーメ)に語り掛ける有名な台詞「人生は祭りだ。一緒に過ごそう(共に楽しもう)」は、監督の思いを込めたものでもあり、観客に語り掛けているとも取れる。映画は妄想の産物であり、虚構に満ちた祭りなのだ。あれこれ考えずに共に楽しめばよいではないか。映画の真相は、監督にしか分からない。否、監督でさえ……。いつの間にか画面から消えたガイドに託してフェリーニがそう言っているように思えてならない。

(教育委員会 熊谷尚慶)